

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3272000112		
法人名	株式会社 ひょうま		
事業所名	グループホーム ひなたぼっこ・美都②		
所在地	島根県益田市美都町山本イ2番地3		
自己評価作成日	平成27年8月27日	評価結果市町村受理日	平成27年12月7日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.jp
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 コスモブレイン		
所在地	松江市上乃木7丁目9番16号		
訪問調査日	平成27年9月30日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

職員は、人生の終盤での出会いを大切に思い、常に利用者本人が主体であり、一日でも多くの笑顔が見られるよう努めている。
職員間の連携がしっかりとでき、共感できる仲間(利用者・職員とも)作りを目標に日々、努力している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

同じ敷地の1階と2階に分けて2つのグループホームがある。1階と異なり限られたスペースしか無いため比べるとかなり不利な面はあるように見受けられるが、反対にそれを生かした形でケアが行われている。利用者の動きは常時見渡すことができるし、食事の準備や作業も常に職員と利用者が一緒に取り組んでおり、アットホーム感が強く認知症の利用者の精神面の安定が感じられる。利用者同士が相手を気遣う優しい声かけもあり、ほほえましく感じられた。中心市街地からは遠いが、山間の静かな住宅地の中にあり、学校などの公共施設も近く恵まれたか環境にある。地域の一人として交流に時間をかけてきており、今後に於いても認知症ケアのノウハウを地域に伝えるよう取り組んでいただきたい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人内で共通の理念があり、月に一度の職員会議で理念に沿ったケアができています。職員一人一人が振り返りをしている。	グループの開所時に作成された理念を継続。理念に基づいたケアができています。毎月自己評価の中で振り返りをし個々に記入するようにしています。管理者がとりまとめ会議の際に検討するようにしています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	地域の自治会行事(環境整備、祭りなど)に積極的に参加している。また、日常的に散歩や買い物などに出掛けており、その時お会いした方々と挨拶や会話をし、交流を図っている。	自治会費を払い加入している。地域の祭りや盆踊りなどの行事や奉仕活動にも、利用者と一緒に参加している。ごみ収集の当番の班にも入り、積極的に地域の一人としての活動を続けている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症について、運営推進会議の場で具体的に触れたり、質問等に対応し、理解を深めようと努めている。また昨年度までは毎年、人材育成のため、地元高校生の実習受け入れも行っていった。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホームの近況や取り組み、家族アンケート結果、ヒヤリハット事例、今現在気を付けている事や、困ったこと等報告し、意見交換をしている。会議は議事録にまとめ、そこで出た意見などはすぐに職員に伝達し、サービス向上に活かしている。	1階、2階で合同で開催している。利用者の状況や行事等の取り組みなどを説明し、意見を得ており業務に生かせるようにしているが、会議内容についてはマンネリ化しており、より工夫の必要性も感じている。	参加者が興味をもてるような内容を検討することで、会議の意義を高めていただきたい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	利用者の暮らしぶりや、今後についてなど、現状を理解していただくための相談や、家族からの相談があれば報告し、助言をいただいている。	生活保護利用者があり、市の担当の毎月の訪問を受けている。金銭面を含め相談しながら対応しており、会議への出席もあるため、関わる機会も多くあり良い関係が築けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ホーム全体が2階に位置しているため、危険回避から階下への出入り口はやむを得ず施錠しているが、家族の理解を得、職員も拘束であるという認識を持って行動している。職員会議でも虐待身体拘束について毎月確認を行っている。	寄宿舍だった建物の2階部分を利用しているため危険。1階に繋がる階段の入口部分やベランダへの出入り口は施錠している。改修は難しいことからやむを得ない処置としており、身体拘束に値することを職員は認識している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年2回虐待防止に関する自己チェックをしており、その都度マニュアルを読み上げている。内部研修などにも取り入れており、ホームで伝達講習をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する研修に参加、伝達を行っているが、職員全員が活用し支援できる体制ではない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際に利用料金、終末期や重度化への対応、契約解除などについて、十分に説明し理解を得ている。改定の際も、その都度家族へ説明し、了承をいただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族からは年1回の家族アンケート、家族会、面会時やケアプラン作成時などに、意見や要望を聞いている。利用者からは日々のケアを通して要望を聞くように努めている。それらの要望意見は、職員間で話し合いケアに活かしている。	家族会を年1回食事をしながら、午前中に懇談会、午後に行事や取り組みの紹介、スライドショーなどを行い、利用者と家族と一緒に過ごせる時間を大切に、ホームや職員へ意見を得る機会としている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のスタッフ会議やミーティング等で意見交換をし、その都度、上司に、スタッフの意見・提案を伝えている。	日々の申し送りに時間をかけており、ケアの仕方など意見がよく出ている。管理者は毎月行う自己評価の中にも記入欄を設け、意見が出やすくなるよう心掛けている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者はホーム長会議や、折に触れて職員の状況・要望等を運営者に伝え、働きやすい職場環境であるよう協力し合っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部の研修にはできるだけ多くの職員が参加し、伝達講習や研修報告書の提出、意見交換などを行っている。また、月1回内部研修を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	圏域のグループホーム全体で、年2回テーマを設けて交流研修を開催しており、その内容をホームに持ち帰り、職員間で共有している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面接で本人の状況、想いなどを把握し、ミーティング等で情報の共有をし、職員全員で、ご本人の気持ちを受け止め、安心できるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	自宅訪問や、ホームの見学、電話相談など、ご家族の状況により真摯な対応を心がけ、関係づくりに努力している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初期段階ではご家族の面会や電話などで不安の解消ができるように協力を得ている。職員間でも、今必要としている支援を見極めるため、観察をし、情報交換に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活全般において共に行動する事を基本とし、1人ひとりのできる事に力を発揮してもらいながら、時に教えてもらい、喜び合える関係づくりを心がけている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族には毎月お便りに写真や近況を載せ送っている。また面会時や、電話連絡などで日々の様子や変化を伝え、現状の理解をいただき、共に支えていく関係を築く努力をしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染の理美容院や地域行事、自宅周辺等、本人が大切にしてきた関係を継続できるよう努めている。	近くの保育所の夕涼み会に出かけたり、小学校中学校の運動会を見に行ったり、地域の行事にはできるだけ出かけるようにしている。以前通っていた美容院も続けて利用できるようにしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係性をスタッフ会議やミーティングなどで理解し合い、席の配置や、散歩やドライブなど場面を設定する等し、少しでも孤立しないよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても、これまでの生活が継続できるよう、必要に応じて情報提供している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話や行動、表情等を通して本人の思いや意向を汲み取るようしている。困難な場合は、家族や、知人など協力を得ながら検討している。	今まで使用していたアセスメントを見直し、新たに本人を知るためのシートを作成。担当職員を中心に記入することで、思いを深めより本人に寄り添ったケアに繋がるようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族や知人を通して、またケアプラン作成時、面会、家族会などの機会に利用者のこれまでの人生、生活歴についての情報を知る努力をしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の申し送りや、記録、ミーティング、伝達簿や職員会議などで意見交換をするなど、個々の能力や、心情を見極め、現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の意向の聞き取り(推測も含めて)を基に、家族同席で介護計画を作成している。月一度アセスメント、モニタリングを行い、時に変更があれば家族に承諾を得て、現状に即した介護計画作成に努めている。	毎月1回評価をし直し管理へと繋げている。利用者や家族関係者の参加を得て担当者会議を行い、より本人にあった介護計画になるように取り組んでいる。グループ全体で計画に繋がる記録の勉強会を内部講師の元、実施している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録や、グループホーム日誌などに、気付いた事を記入し、情報の共有に努めている。また内部研修やホーム内で記録の勉強をしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入退院時の対応や、その他の要望に対して、本人、家族の状況を考慮しながら、必要に応じて対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議に自治会や民生委員、老人会の役員の方々の参加もあり、意見交換ができており、関係性を築きながら、楽しく安全に生活できている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	往診が可能な協力医に、家族の同意を得て依頼している。他科受診は家族に同行していただき、できない場合は速やかに受診の状況を報告している。	かかりつけ医を継続することとしているが、夜間緊急時等にも往診可能な協力医を確保している。普段は定期の往診で病状の安定を図っている。内科以外の受診が必要な時には受診に同行し、支持を得ている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員は毎日利用者のバイタル測定を行っており、利用者との関わりや様子観察により体調の変化等に気付いた時は、訪問看護師に報告している。必要と判断すれば医師と相談し、早期に医療機関への受診をすすめている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には可能な限り面会に行き、また、早期退院に向けて、病院関係者と情報交換し、連絡を取り合っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期のあり方については、早い段階から家族の意向を聞き、かかりつけ医との連携のもと、状況に応じて、可能な限りの対応をしている。	協力医の指示を受け昨年2名の看取りを行っている。入院を希望する家族もあるため、段階を追って話し合いの機会を多く持ち、自然な形で看取りに取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	2年に一度全職員が救命講習を受講している。急変時マニュアルや緊急連絡網、懐中電灯など夜勤セットとして常備しており、その時の状況によって、その都度話し合いを行っている。新人研修でも講習を受けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力のもと、年に2度訓練を行っている。災害に関しては、状況に合わせてマニュアルの読み合わせを行い、また運営推進会議の際、地域の方より助言もいただいているが、ホームが2階に位置していることで、努力が必要である。	地域の避難場所になっている場所への移動がかえって危険なため、災害の種類によって異なる対応が検討されている。火事の際は緊急通報装置の使用など地域の協力を得られる体制になっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	狭い環境という事もあり、どこに居ても目につきやすいため、言葉かけや、対応の仕方に工夫をし、周囲に気付かれないよう配慮している。	2階の限られたスペースなので、ケアの際の声かけには特に注意するようにしている。個別記録等の書類の管理場所や職員利用のスペースにも制限がある為、ロフトなどを利用したりと工夫がなされている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	何事にも、本人に聞くよう心がけ、日々の生活の中で、表情や反応を読み取り、本人の希望を把握できるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	おおまかな一日の流れはあるが、本人のペースや、希望に沿って生活できるよう努力している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居前からの地元の行きつけの理美容院へ行く支援をしている。また、外出する時などは、本人の意向を聞き、身だしなみやおしゃれに配慮している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	1人ひとりの嗜好や食べられないものを、職員で共有している。食材の買い物や調理など一緒に行っている。また行事にちなんだ食事を提供し、季節を感じていただいている。	献立を作り買い物にも出かけている。利用者に合うように作業台を低くして、食材を刻むなどできることを手伝ってもらっている。献立は年1回栄養士の指導を受け、栄養分やカロリーなどに気を配るようにしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	年に一度栄養士による栄養指導を受けている。食事量や水分摂取量も記録している。本人が食べやすいような食事形態、食事量、また飲み物などに配慮をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	1人1人の力を見極め、それに応じた見守りや介助を行っている。就寝前は、義歯の洗浄後、洗浄液に浸している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	1人1人の排泄リズムを観察、把握し、状況に合わせて対応している。	全介助の人もあるが日中は紙パンツとパットでの対応としている。パットの種類やあて方などを考え負担が少なくて済むよう配慮している。見渡せる範囲なので、声がけもさりげなく目立たないようにしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の原因や、及ぼす影響をスタッフ間で話し合っている。最終排便日を毎日確認し、なるべく下剤に頼らず、食事、飲み物などで働きかけしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	極力本人の希望に沿えるよう心がけている。入浴したくない方には、清拭、足浴などの声をかけるなど、個々に沿った支援をしている。	1日おきか2日おきには入れるよう声掛けしている。2人介助の方もあり中に入るのが難しい場合はシャワー浴対応としている。湯温や入浴時間などに配慮して気持ち良く入れるようにしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は一人ひとりの様子を見て、休息をしていただくよう声を掛けている。夜寝る前には温かい飲み物や、室温調節をし、気持ちよく眠れるよう努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬ファイルを作成し、職員が内容を把握できるようにしている。変更がある場合は、職員全員が共有する事ができるよう伝達簿に記入し、症状の変化の確認に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの意向や、役に立ちたいという思いに添えるよう、できる事を見極めながら努めている。嗜好品など楽しみにしていただけるように、継続して支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その日の気分や体調、希望に合わせて、散歩やドライブ、買い物など外出できるように努めている。また、本人の要望から、家族にも協力いただき外出支援をする努力もしている。	2階にあるため階段を下りなければならない、職員体制が整うまでは外出を待ってもらっている。体制が整った時点で天気の良い日には、できるだけ外に出かける機会をもつようにしている。	環境面での制限はあるが、少しでも外出の機会を増やせるよう取り組んでいきたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在は自己管理している方はおられないが、できない方は希望に応じて使うことができるよう、家族と相談の上で対応している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	遠方にいる家族に手紙や電話ができるよう配慮している。年賀状に自筆で一言書いてもらったり、宅配便が届けば、電話をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	狭い環境のため、テレビの音量、職員同士の会話など音に関しては気を配っている。食堂、トイレ、部屋の間隔も近いため、のれんやつい立などを置き、不快な思いをしないよう心がけている。季節に合った花など飾るようにしている。	2階であまり広さもないため、冬場は特に暖かい。天井が吹き抜けで高く、明るく高い位置に窓があり、空気の流れを調節できるようになっている。裏の田んぼや山の景色から常に季節を感じることができる環境にある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下やベランダに椅子を置き自由に過ごせるようにしている。限られた狭い共用空間であるため、さらなる配慮は必要と思われる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や寝具を置き、自分の趣味の物や、家族写真を飾るなどし、自分の居場所として心地よく過ごせるよう配慮している。	部屋に持ち込める大きさの物であれば、できるだけ持ち込みを薦めている。動線良くベッド等を配置したり、写真や作品を飾ったりしてつるげるように配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	1人ひとりの状況や、会話などから汲み取ったり、混乱や失敗の原因となるものを見極め、その時の状況に合わせて環境の整備をし、安全に、安心して生活できるよう工夫している。		